



## アブラナ科野菜の 根こぶ病防除について

【指導員】 園芸課 佐藤 譲



▲ブロッコリーの側根についたこぶ



▲軽い根こぶ病の症状。地上部は正常

ハクサイ、ブロッコリーなどアブラナ科野菜の根に発生する「根こぶ病」。収穫後の根を引き抜いてみると、こぶが付いていませんか。一度発生すると、連作によって被害が大きくなる厄介な病害です。被害を増やさないために適切に対処しましょう。

### 【根こぶ病の症状】

根こぶ病は、根にこぶができ、吸水が阻害される病気で、このため、症状が軽い場合は、日中に葉がしおれ、夕方にはしおれが戻ります。症状が進むと生育は進まず、激発圃場ではしおれが戻らず枯死してしまいます。

### 【病原菌と伝染方法】

根こぶ病菌は、休眠胞子の状態で7～10年間生存するといわれており、感染した根はこぶを作り、膨大な数の休眠胞子が作られます。このこぶが腐敗すると、休眠胞子が土壌中に分散し、感染を繰り返します。

### 【防除対策】

- ① 発病株は圃場外へ持ち出し、ナズナなどアブラナ科の雑草も同様に処分する
- ② てんろ石灰で土壌pHを7・0近くに矯正すると、ほぼ発病しない（注1）
- ③ リン酸成分が過剰に蓄積している発病しやすいので、リン酸成分の低い肥料を選

び、亜リン酸を追肥する

- ④ 過湿圃場ほど激発しやすいので、高畝などで排水を改善する

- ⑤ 腐植質の多い土壌で特に発生が多いので、壤土や黒ボク土などでは抵抗性品種を植える

- ⑥ 直播でなく移植栽培とする
- ⑦ 育苗培土は無病の土を使用する

- ⑧ アブラナ科以外の作物と輪作する



### 【薬剤による防除】

土壌殺菌剤や粉剤などの全面処理で効果が期待できません。

ネビジン粉剤は休眠胞子の発芽を抑制する静菌的作用があり、オラクル粉剤・顆粒水

和剤は発芽した菌に直接作用します。（注2）

なお、被害が軽い圃場では、オラクル顆粒水和剤などのセルトレイかん注処理が期待できます。

（注1）てんろ石灰のpH矯正は遅効的なので、前年秋又は早春に粉剤を混和してください。8～10年位pH低下しませんが、後作の作付には石灰資材の施用は控えてください。また、苦土欠乏の症状が出やすい環境となりますので、元肥に水マグを施用するか、追肥に硫マグかん注も考慮してください。

（注2）てんろ石灰でpH矯正した圃場ではオラクル粉剤を施用しましょう。ネビジン粉剤は圃場の菌密度が低下しません。



農薬の使用については、ラベルの記載に従って使用してください。